

定 期 作 況 報 告

令和7年9月
(9月20日現在)



道総研

北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬： 平均気温は平年並みで、最高気温は平年並みで、最低気温はやや高かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比68%）、日照時間はやや少なかった（平年比66%）。

9月上旬： 平均気温はやや高く、最高気温はやや高く、最低気温はやや高かった。降水量は平年より極めて多く（平年比208%）、日照時間は平年並みであった（平年比87%）。

9月中旬： 平均気温はやや高く、最高気温は極めて高く、最低気温は平年並みだった。降水量は平年より多く（平年比164%）、日照時間はやや多かった（平年比134%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温はやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

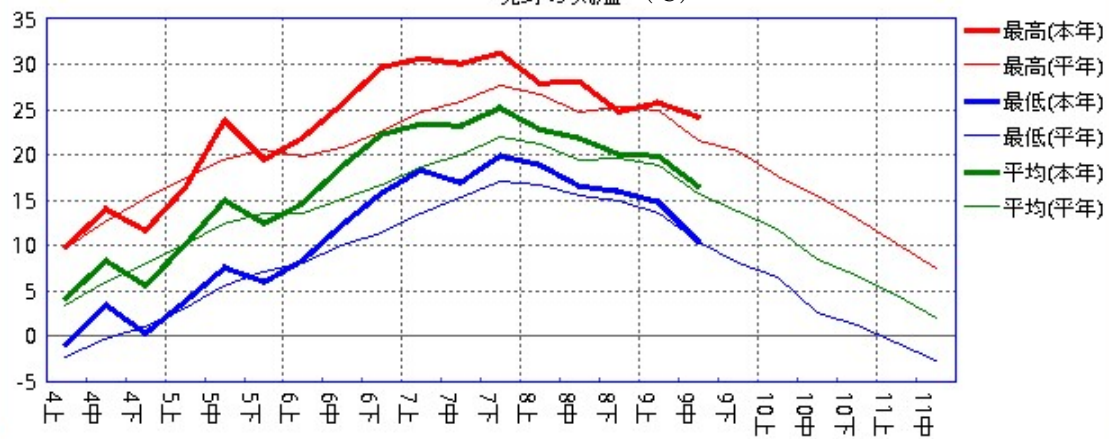
気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	20.1	19.6	0.5	24.7	25.2	-0.5	15.9	15.0	0.9
9月 上旬	19.8	18.8	1.0	25.7	25.0	0.7	14.8	13.5	1.3
9月 中旬	16.5	15.6	0.9	24.2	21.5	2.7	10.4	10.4	0.0
平均値	18.8	18.0	0.8	24.9	23.9	1.0	13.7	13.0	0.7

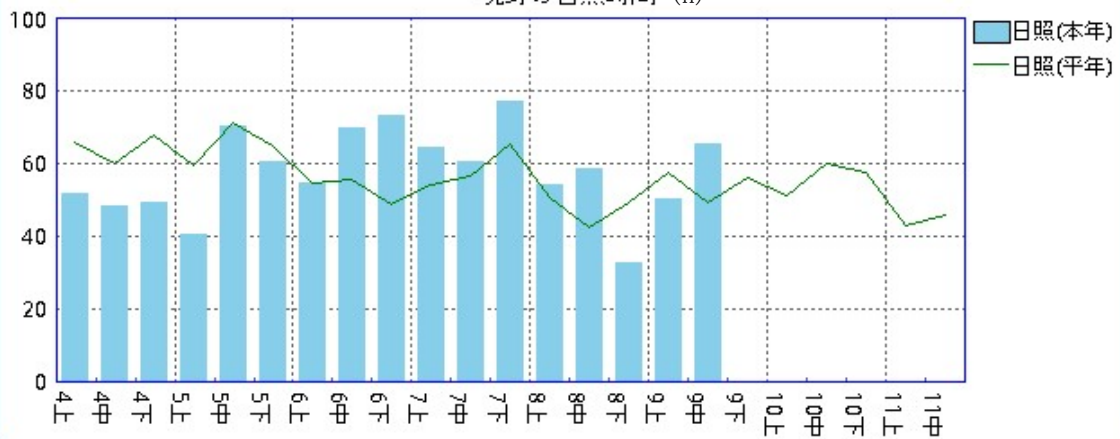
月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	36	52.0	-16.5	32.6	49.3	-16.7
9月 上旬	56	26.7	28.8	50.3	57.5	-7.2
9月 中旬	73	44.5	28.5	65.8	49.1	16.7
合計値	55	41.1	13.6	49.6	52.0	-2.4

注）観測値は置戸町境野のアメダスによる（てん蔵の定期作況気象情報）。10年平均は前10か年の平均値である。

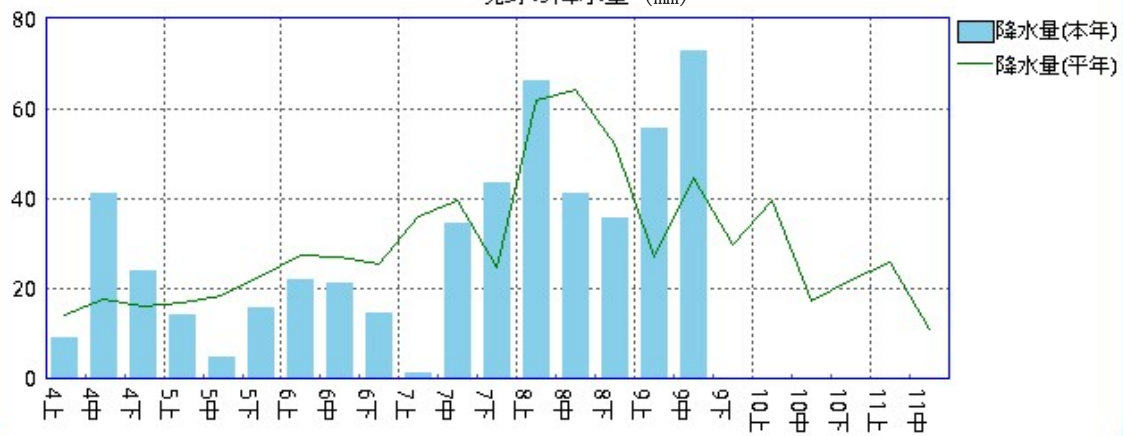
境野の気温 (°C)



境野の日照時間 (h)



境野の降水量 (mm)



3) 春まき小麦 作 況：平年並

月	作況	事由
5月20日	不良	調査圃場は融雪剤散布により3月23日に融雪期となった。播種時期の断続的な降雨により、播種期は平年より8日遅い4月23日となった。播種期が遅く、4月下旬の平均気温が低かったため、平年値より出芽期は8～9日遅く、草丈は並～小さく、茎数は少なかった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。
6月20日	平年並	前節まで生育が遅れていたが、6月中旬の平均気温は極めて高く、日照時間もやや多かったため、草丈は平年より高く、茎数は多くなった。また、「はるきらり」の出穂期は平年より2日遅かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年と比較して稈長、穂長は並で、穂数は「はるきらり」で多かった。また、「春よ恋」の出穂期は平年より2日遅かった。7/14の強風および7/19～20の降雨により、倒伏が多発生した。赤かび病の発生は見られなかった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	平年並	出穂期は2日遅かったが、6月下旬～7月下旬の平均気温が極めて高く推移し、6月下旬～7月上旬は降水量が平年より少なかったため（前報含む）、成熟期は平年より10～12日早く、登熟期間は平年より12～14日短かった。一方、6月下旬～7月下旬の日照時間は、108～150%であった。子実重は平年比98～102%で平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
9月20日	平年並	登熟期間が平年より12～14日短かった（前報）ことから千粒重は平年を大きく下回った。容積重は平年並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

作況データ

調査項目		春よ恋			はるきらり		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	4. 23	4. 15	8	4. 23	4. 15	8
出芽期	(月. 日)	5. 7	4. 28	9	5. 8	4. 30	8
出穂期	(月. 日)	6. 21	6. 19	2	6. 20	6. 18	2
成熟期	(月. 日)	7. 24	8. 3	△ 10	7. 25	8. 6	△ 12
草丈 (cm)	(5月20日)	19. 1	22. 6	△ 3. 5	22. 1	23. 6	△ 1. 5
	(6月20日)	75. 7	72. 9	2. 8	75. 8	72. 8	3. 0
茎数 (本/㎡)	(5月20日)	418	656	△ 238	397	636	△ 239
	(6月20日)	864	763	101	944	718	226
稈長 (cm)	(7月20日)	90	93	△ 3	90	91	△ 1
穂長 (cm)	(7月20日)	8. 7	8. 5	0. 2	8. 1	8. 0	0. 1
穂数 (本/㎡)	(7月20日)	651	644	7	747	639	108
子実重 (kg/10a)		513	521	△ 8	543	533	10
同上平年比 (%)		98	100	△ 2	102	100	2
ブラウエル容積重 (g)		833	828	5	826	830	△ 4
千粒重 (g)		34. 3	39. 8	△ 5. 5	35. 8	41. 8	△ 6. 0
品質 (検査等級)			1	－		1	－

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：やや不良

月日	作況	事由
6月20日	やや良	播種は平年より2日早い5月15日に行った。本年は播種後に極端な低温や干ばつがなかったことから、出芽は順調であった。6月以降、気温が平年より高く推移したことから、6月20日現在の草丈は平年より11cm高く、葉数は1.4枚多かった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
7月20日	やや良	6月下旬以降も気温が極めて高く推移し、降水量は平年より少なかった。高温により生育ステージが早まっており、7月20日現在の草丈は平年より46cm高く、葉数は1.4枚多かった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	平年並	7月下旬以降の気温は高く推移し、平年に比べ開花期は12日、抽糸期は10日早かった。生育ステージが平年に比べ早く進んでおり、節間伸長の鈍化も早まったことから8月20日現在の草丈は平年より31cm低かった。一方で葉数は15.7枚と平年並である。 以上のことから、目下の作況は「並」である。
9月20日	やや不良	8月下旬以降の気温は平年並からやや高く推移した。登熟が非常に早く進んだため収穫は平年より16日早い9月10日に行った。収穫時の熟度は黄熟初期と平年並であったものの稈長は213cmと平年より39cm低く、生総重は平年より1038kg少ない5429kg/10aであった。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

生育データ

調査項目		KD320		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.15	5.17	△ 2
出芽期	(月.日)	5.29	6.05	△ 7
開花期	(月.日)	7.21	8.02	△ 12
抽糸期	(月.日)	7.22	8.01	△ 10
収穫期	(月.日)	9.10	9.26	△ 16
収穫時の熟度		黄熟初期	黄熟初期～ 黄熟中期	-
草丈 (cm)	(6月20日)	40	29	11
	(7月20日)	225	179	46
	(8月20日)	250	281	△ 31
稈長 (cm)	(9月20日)*	213	252	△ 39
葉数 (枚)	(6月20日)	6.1	4.7	1.4
	(7月20日)	14.0	12.6	1.4
	(8月20日)	15.7	15.2	0.5
生総重 (kg/10a)		5429	6467	△ 1038
乾物茎葉重 (kg/10a)			954	
乾物雌穂重 (kg/10a)			1063	
乾物総量 (kg/10a)			2017	
同上平年比 (%)			100	
推定TDN収量 (kg/10a)			1459	
同上平年比 (%)			100	
総体の乾物率 (%)			31.7	
乾雌穂重割合 (%)			52.8	
有効雌穂割合 (%)		100	100	0.0

注1) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）および令和3年（最豊）を除く5か年の平均。

注2) 推定TDN収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

注4) 本年は9月5日に稈長の調査を実施した。

4) 大豆

作 況：良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年並の5月21日に行った。播種後はやや低温で経過したため、出芽期は平年より2日遅い6月7日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。 以上により、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	やや良	平年より降水量は少なかったが、気温は高く、日照時間は多く推移したため、開花始は平年より10日早い7月7日であった。主茎長および本葉数は平年並で、分枝数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	やや良	前節までの少雨傾向を受け、主茎長は平年よりも低かった。高温傾向で日照も十分であったため、生育は順調に進み、主茎節数および分枝数は平年並で、着莢数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	良	成熟期は平年より7日早い9月12日であった。主茎長は平年よりも低いが、主茎節数、分枝数および一莢内粒数は平年並で、着莢数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「良」である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 21	5. 21	0
出芽期	(月. 日)	6. 07	6. 05	2
開花始	(月. 日)	7. 07	7. 17	△ 10
成熟期	(月. 日)	9. 12	9. 19	△ 7
主茎長 (cm)	(6月20日)	10. 4	9. 4	1. 0
	(7月20日)	48. 0	50. 6	△ 2. 6
	(8月20日)	50. 3	61. 3	△ 11. 0
	(9月20日)	50. 0	63. 7	△ 13. 7
	(成熟期)	50. 0	63. 1	△ 13. 1
本葉 数(枚)	(6月20日)	1. 5	1. 2	0. 3
	(7月20日)	8. 0	7. 7	0. 3
主茎節数	(8月20日)	10. 2	10. 1	0. 1
	(9月20日)	10. 1	10. 1	0. 0
	(成熟期)	10. 1	10. 0	0. 1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5. 8	4. 9	0. 9
	(8月20日)	6. 0	5. 7	0. 3
	(9月20日)	5. 1	5. 3	△ 0. 2
	(成熟期)	5. 1	5. 1	0. 0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	94. 9	82. 5	12. 4
	(9月20日)	87. 0	76. 7	10. 3
	(成熟期)	87. 0	77. 2	9. 8
一莢内粒数		1. 88	1. 91	△ 0. 03
子実重(kg/10a)			369	
同上平年比(%)			100	
百粒重(g)			32. 6	
屑粒率(%)			1. 6	
品質(検査等級)			2中	—

注1) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和5年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

5) 小豆

作 況：やや良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年並の5月21日に行った。播種後はやや低温で経過したため、出芽期は平年より1日遅い6月11日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育は順調に進んだため、主茎長、本葉数はともに平年並である。 以上により、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	やや良	平年より降水量は少なかったが、気温は高く、日照時間は多く推移したため、開花始は平年より7日早い7月16～17日であった。主茎長、本葉数および分枝数は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	やや良	「エリモショウズ」および「きたろまん」のいずれも倒伏が発生しているが、主茎長、主茎節数、分枝数および着莢数は、平年を大きく上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
9月20日	やや良	成熟期は「エリモショウズ」では平年よりも15日早い9月10日、「きたろまん」では11日早い9月12日であった。いずれの品種も、分枝数は平年並であるが、主茎長および主茎節数は平年を大きく上回り、着莢数および一莢内粒数は平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

調査項目		エリモショウズ			きたろまん		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期（月．日）		5. 21	5. 21	0	5. 21	5. 21	0
出芽期（月．日）		6. 11	6. 10	1	6. 11	6. 10	1
開花始（月．日）		7. 17	7. 24	△ 7	7. 16	7. 23	△ 7
成熟期（月．日）		9. 10	9. 25	△ 15	9. 12	9. 23	△ 11
主茎長 （cm）	（6月20日）	3. 5	3. 4	0. 1	3. 6	3. 3	0. 3
	（7月20日）	24. 3	17. 5	6. 8	24. 0	17. 1	6. 9
	（8月20日）	91. 4	64. 5	26. 9	117. 6	67. 8	49. 8
	（9月20日）	96. 7	71. 5	25. 2	126. 0	76. 2	49. 8
	（成熟期）	96. 7	71. 0	25. 7	126	74. 7	51. 3
本葉数 （枚）	（6月20日）	0. 6	0. 4	0. 2	0. 6	0. 5	0. 1
	（7月20日）	9. 5	6. 4	3. 1	9. 0	6. 2	2. 8
主茎節数	（8月20日）	19. 6	14. 5	5. 1	19. 6	13. 9	5. 7
	（9月20日）	18. 9	14. 9	4. 0	19. 6	14. 2	5. 4
	（成熟期）	18. 9	14. 9	4. 0	19. 6	14. 2	5. 4
分枝数 （本/株）	（7月20日）	4. 6	2. 5	2. 1	3. 6	2. 0	1. 6
	（8月20日）	5. 3	4. 0	1. 3	3. 8	3. 0	0. 8
	（9月20日）	4. 4	4. 3	0. 1	3. 4	3. 2	0. 2
	（成熟期）	4. 4	4. 2	0. 2	3. 4	3. 3	0. 1
着莢数 （個/株）	（8月20日）	85. 3	45. 7	39. 6	67. 0	42. 5	24. 5
	（9月20日）	62. 7	55. 8	6. 9	59. 0	52. 6	6. 4
	（成熟期）	62. 7	57. 8	4. 9	59. 0	54. 5	4. 5
一莢内粒数		6. 88	6. 26	0. 62	7. 33	6. 19	1. 14
子実重(kg/10a)			386			388	
同上平年比（％）			100			100	
百粒重（g）			14. 6			16. 5	
屑粒率（％）			9. 1			8. 0	
品質（検査等級）			4 上	－		4 上	－

注1) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和5年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

6) 菜豆

作 況：不良

月日	作況	事由
6月20日	平年並	播種は平年並の5月21日に行った。播種後はやや低温で経過したため、出芽期は平年より3日遅い6月7日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育は順調に進んだため、草丈、本葉数はともに平年並である。 以上により、目下の作況は「平年並」である。
7月20日	平年並	平年より降水量は少なかったが、気温は高く、日照時間は多く推移したため、開花始は平年より6日早い7月1日であった。草丈は平年並で、分枝数は平年を上回っているが、本葉数は平年をやや下回っている。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。
8月20日	不良	草丈、主茎節数および分枝数は平年並であるが、着莢数は高温の影響から、平年を大きく下回っている。開花始から高温で経過した結果、成熟期は平年より12日早い8月16日となり、小粒化も懸念される。 以上のことから、現在の作況は不良である。
9月20日	不良	生育期における高温の影響から、一莢内粒数は平年比84%と少なく、百粒重も平年比84%と軽かったため、子実重は平年比49%であった。 以上のことから、現在の作況は不良である。

生育データ

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.07	6.04	3
開花始	(月.日)	7.01	7.07	△ 6
成熟期	(月.日)	8.16	8.28	△ 12
草丈 (cm)	(6月20日)	9.7	10.8	△ 1.1
	(7月20日)	39.0	39.7	△ 0.7
	(8月20日)	40.3	40.5	△ 0.2
	(成熟期)	40.3	40.4	△ 0.1
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.7	1.3	0.4
	(7月20日)	3.3	3.8	△ 0.5
主茎節数	(8月20日)	5.3	5.4	△ 0.1
	(成熟期)	5.3	5.4	△ 0.1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6.7	5.5	1.2
	(8月20日)	5.2	5.5	△ 0.3
	(成熟期)	5.2	5.6	△ 0.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	12.9	21.5	△ 8.6
	(成熟期)	12.9	21.0	△ 8.1
一莢内粒数		2.34	2.79	△ 0.45
子実重(kg/10a)		146	298	△ 152
同上平年比 (%)		49	100	△ 51
百粒重 (g)		51.7	61.4	△ 9.7
屑粒率 (%)			14.0	
品質 (検査等級)			4 上	—

注1) 平年値は前7か年中、令和3年(最凶)、令和4年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

ばれいしょ

6) ばれいしょ 作 況：やや不良

月日	作況	事由	各月の番号
6月20日	平年並	植え付けは平年よりも2日早い、5月9日に行った。浴光催芽期間中の4月下旬～5月上旬にかけて平均気温が低温で経過したため、萌芽期は「男爵薯」が平年並、「コナユタカ」が平年より2日遅かった。 萌芽後の平均気温は高く経過したことで、「男爵薯」は平年に比べて茎長が長く、茎数も多い。一方で、「コナユタカ」は萌芽の遅れを受け、平年に比べて茎長はやや長かったが、茎数で並であった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。	7
7月20日	平年並	萌芽以降、気温が平年より高く推移しており、開花始は平年比で「男爵薯」で2日、「コナユタカ」で5日早かった。また、早生の「男爵薯」は茎長がやや長く、茎数はやや多い。一方、6月下旬以降、降水量が極端に少なかったことと高温が影響し、「コナユタカ」の茎長はやや短く、茎数はやや少ない。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。	7
8月20日	平年並	7月下旬の降水量が多かったことで、高温・干ばつにより停滞していた茎葉の生育が進み、両品種とも茎長は平年よりやや長かった。また、上いも重は「男爵薯」で平年比110%、「コナユタカ」で平年比106%で両品種ともに重かった。一方、でん粉価は、8月上旬までの高温の影響を受け、「男爵薯」で平年より1.6ポイント、「コナユタカ」で平年より2.5ポイント低かった。 以上のことから、目下の作況は「平年並」である。	7
9月20日	やや不良	「男爵薯」の枯ちよう期は平年よりも7日遅かった。上いも数が平年よりも多く上いも重は平年比119%で多収であったが、上いも平均重は平年よりも19 g 軽く、でん粉価も平年より1.3ポイント低かった。「コナユタカ」の上いも重は平年比96%で平年並であった。一方、前報に続き高温の影響を受け、でん粉価は平年よりも3.0ポイント低かったことから、でん粉重は平年比83%であった。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。	6

生育データ

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期 (月. 日)		5. 09	5. 11	△ 2	5. 09	5. 11	△ 2
萌芽期 (月. 日)		5. 28	5. 28	0	6. 01	5. 30	2
開花始 (月. 日)		6. 24	6. 26	△ 2	6. 26	7. 01	△ 5
枯ちょう期 (月. 日)		9. 06	8. 30	7			
茎長 (cm)	(6月20日)	28	21	7	16	13	3
	(7月20日)	64	55	9	71	80	△ 9
	(8月20日)	70	56	14	124	100	24
茎数 (本/株)	(6月20日)	4. 4	3. 4	1. 0	2. 2	2. 1	0. 1
	(7月20日)	5. 2	4. 6	0. 6	2. 3	2. 7	△ 0. 4
上いも重 (kg/10a)	(8月20日)	5831	5305	526	4405	4148	257
	(9月20日)	6449	5435	1014	5526	5764	△ 238
でん粉価 (%)	(8月20日)	13. 7	15. 3	△ 1. 6	16. 5	19. 0	△ 2. 5
	(9月20日)	13. 5	14. 8	△ 1. 3	18. 0	21. 0	△ 3. 0
でん粉重 (kg/10a)	(9月20日)	－	－	－	942	1136	△ 194
上いも数 (個/株)		15. 7	11. 2	4. 5			
上いも平均重 (g)		92	111	△ 19			
上いも重 (kg/10a)		6449	5435	1014			
同上平年比 (%)		119	100	19			
でん粉価 (%)		13. 5	14. 8	△ 1. 3			
でん粉重 (kg/10a)		－	－	－			
同上平年比 (%)		－	－	－			

注) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）、令和3年（最豊）を除く5か年の平均

耕種概要

1区面積 (㎡)	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	株数 (株/10a)
37.8	3	緑肥えん麦	75	30	4444

肥料名	施用量 (kg/10a)	要素量 (kg/10a)			
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO
BBS804	100	8	20	14	5

3) てんさい

作 況：やや良

月日	作況	事由
5月20日	平年並	移植栽培の播種は、平年より2日早い3月22日に行った。育苗期間後半は平年より気温が低かったため、苗の生育はやや不良であった。移植は平年より4日遅い5月7日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は非常に良好であった。その後、5月中旬の気温が極めて高かったため、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並となった。 以上のことから、目下の作況は平年並である。
6月20日	平年並	直播の出芽期は、平年並みの5月15日だった。5月の中旬は降水量が少なく、5月下旬は気温がやや低かったものの、6月上旬以降は気温が平年並以上で、降水量が十分であったため、すべての項目でほぼ平年となった。 以上のことから、目下の作況は平年並である。
7月20日	やや良	6月下旬から7月上旬にかけて気温が高く降水量が少なかったため、一時的に生育が抑えられたが、7月中旬の降雨で、特に根部の生育が進んだ。草丈、茎葉重は平年を下回ったものの、葉数、根重、根周は平年を上回っている。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	良	7月下旬から8月中旬は、気温が高く、降水量および日照時間が十分に得られたことから、生育が進み、ほぼ全ての項目で平年を上回った。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
9月20日	やや良	8月下旬から9月中旬は、気温が平年並みで、降水量が多かったために生育が進み、草丈、生葉数、生葉重、根重、根周ともに、平年並から平年を上回った。一方、根中糖分は、7月から8月の高温の影響を受けて、平年を下回った。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

生育データ

調査項目		移植						直播		
		ライエン			アマホマレ			ライエン		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月. 日)	3. 22	3. 24	△ 2	3. 22	3. 24	△ 2	5. 07	5. 05	2
移植期	(月. 日)	5. 07	5. 03	4	5. 07	5. 03	4	－	－	－
出芽期	(月. 日)	－	－	－	－	－	－	5. 15	5. 15	0
収穫期	(月. 日)		10. 20			10. 20			10. 20	
草丈 (cm)	(5月20日)	6. 4	6. 9	△ 0. 5	6. 1	7. 3	△ 1. 2	－	－	－
	(6月20日)	24. 0	21. 7	2. 3	25. 2	23. 7	1. 5	19. 6	15. 4	4. 2
	(7月20日)	47. 9	52. 4	△ 4. 5	53. 1	55. 1	△ 2. 0	45. 7	51. 4	△ 5. 7
	(8月20日)	56. 9	57. 2	△ 0. 3	66. 6	62. 3	4. 3	60. 4	58. 9	1. 5
	(9月20日)	58. 4	58. 1	0. 3	71. 0	65. 1	5. 9	63. 8	61. 2	2. 6
生葉数 (枚)	(5月20日)	5. 8	6. 5	△ 0. 7	4. 5	5. 3	△ 0. 8	－	－	－
	(6月20日)	13. 4	13. 3	0. 1	11. 4	12. 2	△ 0. 8	10. 9	9. 4	1. 5
	(7月20日)	23. 1	21. 8	1. 3	21. 9	21. 4	0. 5	22. 7	20. 4	2. 3
	(8月20日)	30. 0	27. 9	2. 1	29. 0	26. 1	2. 9	30. 6	25. 9	4. 7
	(9月20日)	35. 4	30. 3	5. 1	29. 0	27. 9	1. 1	30. 5	29. 2	1. 3
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	1. 1	1. 3	△ 0. 2	1. 0	1. 3	△ 0. 4	－	－	－
	(6月20日)	73	60	13	63	67	△ 4	35	21	14
	(7月20日)	435	506	△ 71	458	571	△ 113	372	436	△ 64
	(8月20日)	808	805	3	970	888	82	791	747	44
	(9月20日)	898	750	148	1066	869	197	893	752	141
根重 (g/個体)	(6月20日)	16	15	1	14	18	△ 4	4	2	1
	(7月20日)	381	252	129	381	257	124	283	164	119
	(8月20日)	854	737	117	827	751	76	744	602	142
	(9月20日)	1177	992	185	1055	1016	39	1033	881	152
根周 (cm)	(7月20日)	26. 5	23. 0	3. 5	25. 3	22. 7	2. 6	23. 3	19. 8	3. 5
	(8月20日)	35. 5	34. 1	1. 4	34. 4	32. 5	1. 9	33. 8	31. 4	2. 4
	(9月20日)	40. 3	38. 2	2. 1	37. 1	37. 2	△ 0. 1	37. 3	36. 6	0. 7
根中糖分 (%)	(9月20日)	14. 91	16. 61	△ 1. 70	14. 96	16. 47	△ 1. 51	15. 67	16. 71	△ 1. 04
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)		5553			5967			5314	
根 重(kg/10a)	(収穫期)		7677			7123			6702	
同上平年比 (%)			100			100			100	
根中糖分 (%)	(収穫期)		17. 82			18. 25			18. 16	
同上平年比 (%)			100			100			100	
糖量(kg/10a)	(収穫期)		1367			1299			1213	
同上平年比 (%)			100			100			100	

注1) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）令和5年（最凶）を除く5か年の平均。

8) 牧草（チモシー）

作 況：やや不良

月日	作況	事由
5月20日	やや良	萌芽期は平年より1日遅い4月17日で、冬損は認められなかった。萌芽後の平均気温は5月上旬まで平年並か低く、5月中旬は極めて高く推移した。日照時間は平年並かやや少なかったものの、生育は順調であった。5月20日現在の草丈は平年より7cm高い50cmであり、被度は100%であった。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
6月20日	良	1番草の収穫は平年より1日遅い6月16日に行った。5月下旬はやや低温であったものの、6月に入ってから高温で推移した。1番草の出穂始および出穂期は、6月9日および6月13日でいずれも平年と同日であった。刈取時の草丈は平年より6cm高く、乾物収量は平年比111%であった。 以上のことから、目下の作況は「良」である。
7月20日	やや良	1番草収穫後は、平均気温は平年より極めて高く、降水量は少なく推移した。2番草再生時の草丈は平年より13cm低く、再生はやや緩慢である。 以上のことから、目下の作況は「やや良」である。
8月20日	やや不良	2番草の収穫は平年より1日遅い8月5日に行った。1番草収穫後から2番草収穫まで、平均気温は平年より極めて高く、降水量は7月下旬を除いて少なかったことから、生育は停滞した。2番草の草丈は平年より24cm低く、節間伸長程度も平年より少なかった。乾物収量は平年比41%と少なく、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比91%であった。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。
9月20日	やや不良	2番草収穫以降、平年に比べ平均気温は高く、降水量は並であった。3番草の再生は順調で、再生時の草丈は平年より17cm高かったものの、1、2番草の合計乾物収量は平年比91%とやや不良である（前報）。 以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

生育データ

品種名		なつちから		
調査項目		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4. 17	4. 16	1
冬損程度		1. 0	1. 0	0
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月. 日)	6. 09	6. 09	0
出穂期	(月. 日)	6. 13	6. 13	0
出穂程度	1番草	7. 0	7. 0	0
節間伸長程度	2番草	2. 0	4. 4	△ 2. 4
収穫日 (月. 日)	1番草	6. 16	6. 15	1
	2番草	8. 05	8. 04	1
	3番草		10. 03	
倒伏程度	1番草	1. 0	1. 1	△ 0. 1
病害罹病程度	1番草	1. 0	1. 0	0. 0
	2番草	2. 0	2. 3	△ 0. 3
	3番草		3. 1	
草丈 (cm)	(5月20日)	50	43	7
	(6月5日)	79	77	2
	1番草	101	95	6
	2番草再生時	25	38	△ 13
	2番草	39	63	△ 24
	3番草再生時	53	36	17
	3番草		40	
生草収量 (kg/10a)	1番草	2, 236	2, 362	△ 126
	2番草	384	793	△ 409
	1+2番草計	2, 620	3, 155	△ 535
	3番草		470	
	合 計		3, 625	
乾物率 (%)	1番草	26. 6	22. 6	4. 0
	2番草	23. 9	29. 5	△ 5. 6
	3番草		29. 1	
乾物収量 (kg/10a)	1番草	594	533	61
	同上平年比 (%)	111	100	11
	2番草	91	225	△ 134
	同上平年比 (%)	41	100	△ 59
	1+2番草計	687	758	△ 71
	同上平年比 (%)	91	100	△ 9
	3番草		135	
	同上平年比 (%)		100	
	合 計		893	
	同上平年比 (%)		100	

注1) 平年値は前7か年のうち令和5年（最凶）、令和6年（最豊）を除いた前5か年の平均。

注2) 冬損程度、倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

注3) 出穂程度および節間伸長程度は1:無～9:極多。